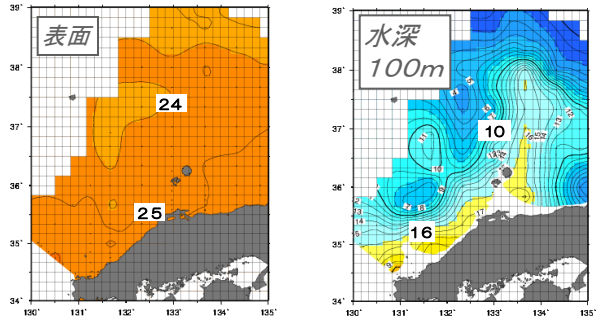


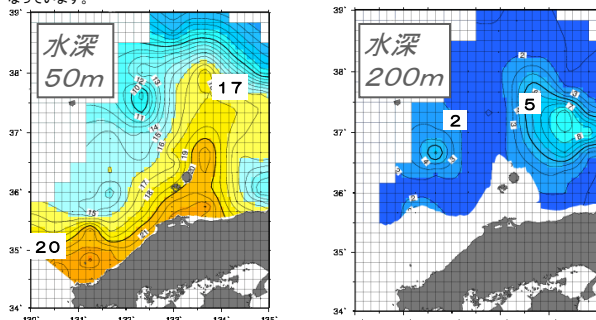
発行 鳥取県水産試験場 (電話:0859-45-4500)

試験船による海洋観測結果(9月上旬)



鳥取県沖と隠岐周辺海域は24°C前後で先月より1°C低下し、沖合部は平年並、沿岸部は平年より1°C低めの値となっています。

隠岐諸島周辺海域は16°C前後で、先月とほぼ同様でした。



鳥取県沖と隠岐諸島周辺海域は20°C前後で先月より1°C上昇し、沿岸部および隠岐周辺海域は平年並、鳥根沖および兵庫但馬沖は平年より2～3°C低め、隠岐北東海域は平年より1°C高めの値となっています。

鳥取県沖から兵庫県沖合の北緯37°00'付近に暖水塊があります。

水産試験場

地中海で調査を実施しています！ (中海水産資源生産力回復調査)



- 毎年秋頃になると鳥取県西部地域の人たちが楽しみにしているのが、老若男女誰でも手軽に楽しめるマハセ(ゴス)釣りです。
- 近年、このマハセが昔よりも釣れなくなってきたという話を耳にしている人も多いのではないのでしょうか。マハセ減少の原因には中海の環境の変化が原因であると考えられています。
- 水産試験場では平成25年度より中海の水産資源の復活を目標に中海での調査を実施しています。



調査場所となる造成浅場(米子市大崎)

● 中海の漁業の再生に向けて

- 中海の水産資源の生産力アップを図るためにはクロダイ・スズキなど沿岸性の魚類の生育に適した浅場の環境が重要な意味を持っており、現在米子市大崎地区の造成浅場で魚類の出現状況に関する調査を実施し、浅場の有用性について検証を行っています。
- また、造成浅場は魚類だけでなくアサリ等の貝類の生息場所としても適しているか調べるため天然採集したアサリの稚貝を造成浅場へ移植する放流試験を行っています。
- これまでの調査で造成浅場内で時期により魚の生育を育かす負酸素の水が流入してくることが分かってきました。今後も造成浅場内における魚類の出現状況や減耗原因を調査していくと共に、マハセの畜養試験等を実施し、中海を象徴する魚の一つであるマハセの資源の再生手法等を検討していきます。



ネットを曳き魚類を採集



魚類の生息に適した竹林礁の設置



ペイント標識して放流するアサリ



マハセの畜養試験を実施中

平成26年4月から下記2社の広告を1年間掲載することになりました。

いつの時代も、技術とサービスをもって水産業・漁業の皆様を支援してまいります

西日本ニチモウ株式会社

本社 山口県下関市小月小島2丁目3-17 〒750-1136
電話 083-282-4041(代表) FAX 083-282-0424
境港営業所 鳥取県境港市栄町67番地 〒684-0006 電話 0859-44-0475 FAX 0859-42-6330

9月上旬の水塊配置と対馬暖流

- 鳥根沖冷水の沿岸への張り出し：鳥根沖冷水は先月に引き続き張り出しが強く、隠岐諸島西方海域では接岸傾向にあります。
- 沖合の対馬暖流：対馬暖流は鳥根沖から隠岐海峡を通過する流れが強く、鳥根半島西端から隠岐北方に向かう流れは逆に弱くなっています。

※県内の漁獲情報については水産試験場ホームページ(鳥取県水産試験場で検索してください)に詳しく掲載しています、ぜひご利用ください。

★水産課からのお知らせ★

『第15回日韓水産セミナー』を開催しました！

韓国江原道から行政、大学、漁業関係者からなる訪問団10名を鳥取県に迎え、8月26日～29日の日程で第15回日韓水産セミナーを開催しました。

今回は、日本海のイカ資源、漁村観光、漁業者の水産加工・流通の取組及び漁業後継者の育成をテーマに両県道から話題提供し、漁業者を代表して県漁協境港支所の平野陽平氏から「冷凍生シラスの商品化の取組について」、淀江支所の元木輝氏から「若手漁業者の就業環境と課題について」発表がありました。両県道で水産業を取り巻く情勢は共通しており、イカの資源管理と漁業者による流通加工の発表に強い関心が寄せられました。

来年度以降については、漁業関係者を交えて両県道で共通資源を使った料理教室などのイベント交流についても検討することになりました。



2014.9.27 第15回日韓水産セミナー



平野 陽平氏 (県漁協境港支所)



元木 輝氏 (県漁協淀江支所)

■今月の漁業許可証更新情報

平成26年10月までに許可の更新が必要な漁業種類は以下のとおり
平成26年10月14日まで・・・機船船ひき網漁業(わかさぎ機船船ひき網/中海限定)
平成26年10月31日まで・・・まき刺網漁業(たいまき刺網、1そつまきほらまき刺網、固定式刺網漁業(三重網))

■遊漁船登録業者の皆様へ

遊漁船登録に保険期間等の変更があった時は、変更申請をお忘れなく

栽培漁業センター

鳥取県沿岸で9年ぶりに有害赤潮が発生

9月17～22日にかけて鳥取県西部を中心に沿岸域で魚貝類に有害な赤潮(コクロディウム・ポリクリコイデス)を確認しました。9月18日から赤碕、御来屋、中山で有害赤潮の防除剤の散布を行いました。なお、今回の有害赤潮は、鳥根県～兵庫県で確認されました。



御来屋での防除剤散布

海色の変化 岸側の海色が茶色



ポリクリコイデス
コクロディウム

今回の有害赤潮の接岸により、御崎漁港、達坂港周辺でアブリ・サザエ等への被害が確認されました。

9月24日有害赤潮警報は解除されましたが、10月中まで有害赤潮が来襲する可能性があるため、今後も海に異変がありましたら、栽培漁業センター(TEL:0858-34-3321)まで御連絡ください。



達坂港での被害の一部

今回発生している赤潮は人体には影響はありません。魚貝類を食べても問題はありません。

共和水産株式会社

取締役会長 相田 仁

〒684-0006 鳥取県境港市栄町65番地
TEL 0859-44-7171 (代) FAX 0859-42-6530

